

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2単位)	3. 科目番号	GEBS2303 GEHL1103 GEHL2303 GEHL2314 JNGL2406
2. 授業担当教員	相原 豊		
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。</p> <p>授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助方法を知る。 4. レクリエーションの企画・運営ができる理論・知識を身につける。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1 レクリエーションの基本的理論と概念のレポート</p> <p>課題2 レクリエーションの企画と運営の実施</p>		
10. 教科書・参考書・教材	必要に応じて適宜資料を配布します		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションの特質を捉えて、自己への挑戦・前向きな姿勢(出席状況含む)を評価基準とする。 2. 実技発表への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、レクリエーションへの考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技発表・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本講義はレクリエーションの基本的意義からレクリエーションの概念等まで理解し応用技術の実践ができることを目的とします。また自分の人生においてどのようにレクリエーションと関わっていくかというライフサイクルプランの作成も行うことで現場での企画、運営が可能となる指導者を目標とします。</p> <p>なお運動時はジャージで参加すること。ジーンズ・スウェット等は禁止です。また室内では体育館シューズを使用します。</p>		
13. オフィスアワー	講義内で周知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：概要や進め方、目的確認	事前学習	レクリエーションの意味を考える
		事後学習	レクリエーションの目的と意味を考える
第2回	レクリエーションの基礎理論① ○レクリエーションの意義と役割	事前学習	レクリエーションの意義を考える
		事後学習	レクリエーションの課題を考える
第3回	レクリエーションの基礎理論② ○各発達段階のレクリエーション	事前学習	各発達段階を調べる
		事後学習	各発達段階のレクリエーションをまとめる
第4回	レクリエーションの体験① ○様々な基礎的レクリエーション	事前学習	基本的なレクリエーションを調べる
		事後学習	実践したレクリエーションをまとめる
第5回	レクリエーションの体験② ○ニュースポーツを用いたレクリエーション	事前学習	ニュースポーツを調べる
		事後学習	実践したニュースポーツをまとめる
第6回	レクリエーションの体験③ ○発達段階に適したレクリエーション	事前学習	3回目の資料に目を通す
		事後学習	実践したレクリエーションをまとめる
第7回	グループワーク① ○目的・対象に応じたレクリエーションの考案 「青年期におけるチーム力UPについて」	事前学習	初期発達段階のレクリエーションを考える
		事後学習	実践したレクリエーションをまとめる
第8回	グループワーク② ○目的・対象に応じたレクリエーションの考案 「老年期における他者との関わりについて」	事前学習	中・壮年期レクリエーションを考える
		事後学習	実践したレクリエーションをまとめる
第9回	グループによる企画① 乳幼児期を考慮した企画	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う
		事後学習	実践結果から改善案をまとめる
第10回	グループによる企画② 児童期を考慮した企画	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う
		事後学習	実践結果から改善案をまとめる
第11回	グループによる企画③ 中壮年期を考慮した企画	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う
		事後学習	実践結果から改善案をまとめる
第12回	グループによる企画④ 障害を考慮した企画	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う
		事後学習	実践結果から改善案をまとめる

第13回	グループによる企画⑤ 街づくり、地域活性を考慮した企画	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う
		事後学習	実践結果から改善案をまとめる
第14回	レクリエーション大会①	事前学習	レクリエーション大会の準備
		事後学習	大会の反省から次回の改善を考える
第15回	レクリエーション大会② まとめ	事前学習	レクリエーション大会の準備
		事後学習	適切なレクリエーション方法を考察する
15. 実務経験を有する 教員特記事項	オリンピック体操選手としての出場経験、また体操教室（体操クラブ）の体操指導の実務経験を活かし、「7」 に示す講義概要に則した講義を行う。		